ナイスの視線で、日常の楽しみをお届けする、西成発の地域情報誌 2024

Take free!

なび

7月号
vol. 209

にしなりの街角・街並み
「南海電鉄玉出変電所」
玉出東1丁目12番

特集

おとなの社会科

第16講 歴史 ── 有楽物語・前編

おとなの社会科

第16講 歴史――有楽物語・前編

昔、使った教科書をパラパラめくってみると、あの頃には気づけなかった面白さがみえてきた――そんな経験はないだろうか。学校の教科書は昔と同じではない。だから、大人になってからの学び直しも決してムダではないはず。学校に通ってた頃を思い出して、もう一度、目の前に広がる社会を学び直してみませんか。

茶人として大成した人物である(②)。

この辺りはかつて西成郡勝間村に属し、当時から有楽という字名が存在していた。明治の終わり頃から勝間村は急速に宅地化が進み、町制が施行され玉出町となる。1927年には大阪市に編入され、この時に有楽町という町名が生まれた。

しかし、1973年に大阪市の住居表示の廃止・変更・新設が実施されると、西成区全域で町名が再編され、50年足らずで有楽町は消滅。現在は天下茶屋三丁目と岸里東一丁目の一部になっている。

織田家に生まれて

織田有楽斎は、1547年に尾張の戦国大名である織田信秀の十一男として生まれた。農民出身の側室を母に持ち、正室の子で嫡男である信長とは13歳離れていた。幼名は源吾といい、身体が弱く病気がちな子どもだったという。

源吾の傅役(教育係)は、信秀の重臣である平手政秀だった。政秀は文武両道の教養人で、茶の湯の名人でもあった。京の公家である山科言継の日記には、尾張を訪れた時に政秀の屋敷で茶の湯のもてなしを受けたが、その時の茶室も政秀の振舞いも感嘆すべき見事さだったと書かれている。源吾が後に茶人となったのは、幼少期に政秀から受けた影響も大きかったようだ。

大阪市が設置した有楽町の旧町名継承碑。市内には320基の継承碑がある

江戸時代初期の1622年、絵師・狩野山楽によって描かれた織田有楽斎像

ここで、茶の湯の歴史について簡単に触れておきたい。日本に茶が伝来したのは平安時代初期、遣唐使が大陸より持ち帰ったのが始まりとされる。鎌倉時代に入ると臨済宗の開祖である栄西が宋から抹茶を伝え、禅宗の寺院を中心として全国に茶の栽培や喫茶の習慣が広がっていく。

室町時代には豪華な茶室や茶道具を使った茶の湯が生まれるが、やがて京の僧侶・茶人である村田珠光が、質素さと禅の精神を重んじる「侘び茶」を創り出した。この侘び茶を発展させたのが、堺の豪商だった武野紹鷗である。紹鷗は青年期に京で茶の湯を学び、堺に持ち帰って多くの町衆たちに指導した。

その弟子の中には、若き日の千利休もいた。利休は倉庫業を営む豪商の息子で、18歳で紹鷗に弟子入り。侘び茶を継承して完成させ、後に茶聖と呼ばれるほどの大茶人になる。

晩年の紹鷗が隠棲したとされるのが、旧・有楽町にほど近い天神ノ森(紹鷗の森)である。この一帯は勝間新家と呼ばれ、古代から鬱蒼とした森が広がる鄙びた土地だった。平安時代前期、菅原道真が大宰府に左遷される途中にここで休憩したといわれ、室町時代に入ると道真を祭神とする天満宮が創建された。

紹鷗は勝間霊水と呼ばれる上質な湧水に惹かれ、森の中に茶室を作った。紹鷗森天満宮の境内には樹齢600年とも言われる13

失われた町を求めて

早春の松虫通を歩いていると、歩道脇の小さな碑が目に止まった。場所は天下茶屋駅の南東、松虫通と紀州街道が交わる岸里東一丁目交差点の辺り。近づいて覗き込むと「旧町名継承碑 有楽町」と刻まれている(①)。

有楽町といえば東京の繁華街が有名だが、西成の有楽町は「ゆうらくちょう」ではなく「うらくちょう」と読む。町名の由来は、かつてこの地に織田有楽斎の屋敷があったという言い伝えによる。有楽斎は織田信長の弟で、

天下茶屋跡。芽木家の屋敷は1945年の大阪大空襲で焼失し、今は1本の楠と土蔵、石像だけが残る

本の楠があり、かつてここが一面の森だった頃の気配を色濃く漂わせている(③)。

利休との出会い

1551年、源吾が4歳の時に父・信秀が死去。家督を継いだ信長は1560年の「桶狭間の戦い」で今川義元を破って頭角を現すと、今度は斎藤氏が治める美濃の征服に乗り出した。

翌1561年、14歳になった源吾は元服して長益を名乗り、美濃攻めの戦で初陣を迎える。しかし全く戦力にならなかった上に、帰り道で落馬して骨折し、信長を呆れさせた。それから長益は戦の前線には出されず、後方で荷物や食糧の運搬係を務めた。1567年には政秀の娘を正室に迎え、その際に平手家より多くの茶道具を譲り受けている。

尾張・美濃を制した信長は岐阜を拠点とし、天下統一のため1568年に足利義昭を擁して京に上る。そして財源と武器の確保を目的に、最大の国際貿易港で鉄砲の生産地でもあった堺に圧力をかけ、自身の直轄地とした。

堺との繋がりを強めたい信長は、豪商茶人の千利休、津田宗及、紹鷗の娘婿でもある今井宗久の三人を、茶の湯全般を司る茶頭として召し抱える。この時、宗久は紹鷗から譲り受けた「紹鷗茄子」という茶入を信長に献上した。また、大名の松永久秀も信長への忠誠の誓いとして、足利家由来の茶入「付藻茄子」を差し出している(④)。

こうした名品を手にした信長は名物茶道具の収集に熱中し、周囲にも茶の湯を奨励した。そして、戦で手柄を立てた家臣にのみ茶会の開催を許したり、褒美として高価な茶道具を与えたりすることで家臣を統率していく。こうした信長による茶の湯の政治的な利用を、後に豊臣秀吉は「御茶湯御政道」と呼んだ。

利休はとりわけ信長に重用され、茶の湯政策の有力な協力者となった。茶人としての長益は利休も一目置くほどだったが、二人の間に密接な師弟関係はなかったようだ。長益は亡き紹鷗を心の師として敬愛し、利休とは違う独自の茶の湯を模索していた。

1572年に信長の長男である信忠が元服すると、長益は信忠の側近となり、戦においては参謀となった。1574年には尾張の知多郡を与えられ、大草城の城主となる。この頃には文化交流や朝廷との交渉役など、主に芸術や実務において力を発揮した。

紹鷗森天満宮。境内に広がる鎮守の森は大阪市の保存樹林に指定されている

長益から有楽斎へ

1582年6月1日、京の本能寺で、信長が自身の収集した茶道具を披露する大茶会が開催された。明智光秀の謀反「本能寺の変」が起きたのは、その翌朝のことである。近くにいた長益と信忠は援軍に向かうが、その間に信長は寺に火を放ち自害。数十点に及ぶ名物茶道具も焼失した。

信忠軍は二条御所に移って光秀の軍勢と戦うも、兵力の差は大きく、負けを悟った信忠は切腹。長益は御所を脱出して岐阜城から堺へと逃れ、今井宗久の屋敷に匿われながら自らの茶の湯を追求していたという。

長益が信忠と最期を共にしなかったのは、織田家の存続のためだったとも言われる。しかし世間では、長益は信忠に切腹を勧めて自分だけ逃げたという悪評が流れた。京の民衆の間では次のような歌が流行し、長益は皮肉や嘲笑の的となったという。

〝織田の源五(長益)は人ではないよ お腹召せ召せ召させておいて われは安土へ逃げるは源五 六月二日に大水出て 織田の原なる名を流す〟

紹鷗茄子(左)と付藻茄子(右)。信長・秀吉・家康が所有した名品である

長益はその後、信長の次男である信雄に仕えた。信雄は秀吉の家臣となるも関係が悪化、1584年の「小牧・長久手の戦い」では徳川家と同盟を結んで豊臣軍と戦った。この時は長益が秀吉と家康の講和を仲介し、織田家は再び豊臣家の配下に戻る。

この頃、芽木光立という人物が紹鷗の森の西側を切り開き、紀州街道沿いに茶屋を開いた。西成区を南北に貫く紀州街道は津守浦沿いの村落を結ぶ生活道路だったが、1583年に秀吉が大坂城の築城を始めると、発展していく大坂の街と堺・住吉大社を結ぶ幹線として整備が進んだ。

ある時、秀吉が紀州街道を通った時に芽木家の茶屋で休憩し、井戸から汲んだ勝間霊水でお伴の利休に茶を作らせたところ、味の良さに感激。霊水を「恵の水」と名付け、それから堺や住吉大社へ行く際には必ず芽木家の茶屋に立ち寄ったという。そこから天下人の「天下茶屋」、太閤殿下の「殿下茶屋」という呼び名が生まれ、勝間村・今宮村・天王寺村の境界付近の広い一帯を表す地名として定着した(⑤)。

秀吉は信長と同じく利休を重用し、茶の湯の政治利用を推し進める。利休は茶頭の役割を超えて秀吉の右腕となり、政治や軍事にも深く関わった。1587年には北野天満宮での大茶会「北野大茶湯」の開催を主導、また秀吉が京に築城した聚楽第に邸宅を構えるなど、茶人としての権威と名声は頂点に達した。

一方の長益だが、主君の信雄が再び秀吉と対立し、1590年には領地を没収されて関東に流罪となる。長益は秀吉に従う姿勢を見せ、秀吉の御伽衆(相談役)となって摂津に2千石を領有。また、剃髪して無楽を名乗った。しかし秀吉から「あなたの人生は無楽ではなく有楽だろう」と言われたのを機に有楽に改名、ここから茶人・有楽斎としての人生が始まる。織田長益、この時43歳であった。

文責：福井龍磨

にしなりもん

食いだおれの街・大阪ミナミのさらに南の街・西成。
まだまだ発掘されていない「にしなりもん」を味わい尽くします。

西成でみつけた海の宝石箱「福ぷく」

主食として欠かせない「米」。その米をいかに美味しく食すかと、卵をかけたり漬物にこだわったりと読者のみなさんも日々考えていることだろう。

そして、「米」をしっかり食べられる「丼もの」の好みは意見が分かれるところ。かつ丼、親子丼、牛丼など種類は様々で、お店もあちこちにある。みんな大好きアンパンマンでも丼ものキャラクターは21人もいて(変身形態含む)、特にカツドンマン、てんどんまん、かまめしどんのトリオは有名だ。ちなみに、てんどんまんはテレビ版第1話からの登場で、カレーパンマン(第2話登場)やしょくぱんまん(第3話登場)に先んじている。丼ものの人気がうかがえる。ただ、そのアンパンマンにも登場していない丼、「海鮮丼」が今回の主役。ちょっと今日は豪華な丼を食べようかなと、鶴見橋商店街6番街にある「おさかなやさん　福ぷく」を訪問。

お店は奥に長くなっていて、一番奥に厨房、その手前にテーブル席が4つ、入口前には中央市場で買い付けたお刺身の店頭販売がある。「いらっしゃいませ!」と元気よく迎えられ着席、テーブルや洗面台など店内は全て砂浜をイメージしたオシャレなもの。箸置きも貝殻で、一気に夏の海に来た気分に。また店の暖簾などに描かれている魚は店長さんの顔を模したものでかわいらしい。

ピーク時間を外して13時頃にお伺いしたが、お客さんの足はまだまだ絶えない。常連さんやお昼から刺身で一杯という人もいて昼呑みにもいい感じ。

海鮮丼を中心に、お寿司、エビ天丼、うな丼、日替わり定食などランチでもメニューは豊富でどれもおいしそう。過去には豪華通風丼(ウニ・イクラ・エビ)といったおもしろいメニューもあり。筆者は一日10食限定のスペシャル海鮮丼をオーダー、同行者は寿司定食。

寿司定食が先着、見た目もオシャレでまずは目で楽しむ。いよいよ海鮮丼が到着、ここでベタだがやはり頭に浮かんできたのが某有名食リポーターの「海の宝石箱や〜」。同行者が若いので口に出すのをグッとこらえて、心の中でその迫力に感嘆し目で楽しむ。器からはみ出る刺身に海老も3尾とインパクト大。さらにどちらにもサラダと小鉢2品にみそ汁もついてボリューム満点。

いざ実食! サーモン、まぐろ、イカなどどれも鮮度抜群で一気に食べてしまう。海老は頭を持ってパクっと身の部分を食べるとおいしいにさらに甘い! ごはんの量も、「これくらいでいいですか」と事前に聞いてくれて、しっかり大盛りだったので、小鉢と合わせてお腹いっぱい。

次は夜に来てビールと一緒に美味しい刺身を食べてみたいなと思う。お店自体は開店して約2年、Instagramにもたくさんの写真や営業カレンダーなども載っていて、見ているだけでまた行きたくなる。

お店の人に「ありがとうございました!」と元気よく送り出された帰り道、好きな丼ものを聞かれたら確実に「福ぷくの海鮮丼」と答えるだろうなと、幸せな気分で帰路につく。

文責：笹川勝正

おさかなやさん　福ぷく
住　所：西成区鶴見橋3丁目2の29
営業時間：昼11時〜15時(LO14時30分)
　　夜17時〜22時(LO21時30分)
定休日：日・祝

[沖田一志]先月、奈良にある航空自衛隊の基地祭に行ってきた。運動場にはヘリコプタ(UH-60)が展示されていて、基地祭の最後にエンジンが始動、目の前で飛び立っていった。見応えがあった。

[磯拓哉]先日、北海道の北見市と網走市を中心に2泊3日の視察に行った。とにかく広く、広大な自然に圧倒された。初日の最高気温が28℃、3日目の最低気温が3℃という寒暖差にも驚いた。

[田岡秀朋]直近10年で5度も欧州CLを制したマドリーが今年も戴冠した。「1-0で勝つより4-5で負ける方が美しい」派の僕は詰めが甘く、憎いくらいの勝負強さに少し憧れたりする。

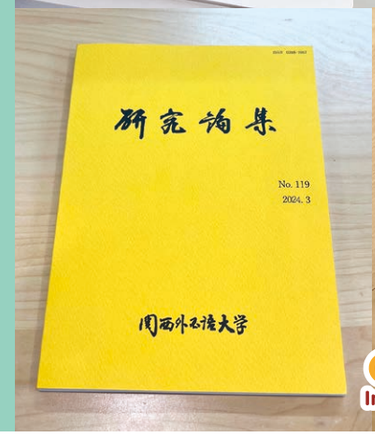
[笹川勝正]最近まんがの知識で知ってとても役に立ったこと。「オキシ漬け」。洋服の汚れがびっくりするくらい落ちて夏のお洋服が生き返りました。

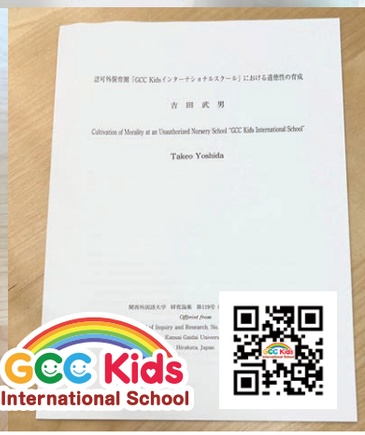
melody of Smiles

GCC Kidsインターナショナルスクールに関する研究論文がこのたび『関西外国語大学研究論集』に掲載されました！

著者の吉田武男関西外国語大学教授は、日本のグローバル化された幼児教育施設の実践を調査し、グローバル化社会に適う道徳性の育成を研究されています。当スクールは、未来志向的な保育・教育施設の事例として半年に亘り調査されました。

今回の名誉は私たちが日々取り組む良い保育・教育環境づくりに大きな励みとなりました。吉田教授ありがとうございます！！！





大阪市の住民参加型地域組織「地域活動協議会」の活動に橋を架けよう「近ツ橋【ちかつきょう】」

近ツ橋

橘ふれあい喫茶

真夏のような暑さの中、汗ばみながら自転車を漕いでたどり着いたのは、毎月第3土曜日に開いている「橘ふれあい喫茶」(橘地活協)。

メニューは甘味がぜんざいとみつ豆とアイスクリーム。ドリンクはコーヒー、紅茶、ミックスジュース、クリームソーダなど全品100円。冷たいのがよかったのでみつ豆とクリームソーダを選び、〆て200円は超お得。

「若いお兄ちゃんのみつ豆できたで～」と持ってきてくれた。客層をみるとたしかに「若い」が、四捨五入すると40歳の私、それがみつ豆を頼んでいるという不思議な光景…。

みつ豆には、あんこと寒天にフルーツ、さらにはアイスクリームが盛られているが、蜜はかかっていない。なるほど素材の甘さを混ぜ合わせて楽しむタイプと推察。値段のワケも納得した。夏の暑い昼下がり、家庭の暗がりでちょっと涼をとりたくなった甘さかな。

家庭でのひそかな愉しみが分かち合える橘ふれあい喫茶、みなさんもぜひご参加あれ。

橘ふれあい喫茶
🕒 毎月第3土曜日 13時～15時
📍 橘コミュニティセンター（西成区松1の8の11）

[西田吉志]今年３月、地域の子どもや若者との「つながり」づくりや皮革産業の継承などを目的としたNPO法人「にしなり絆ほーむ」が設立された。６月の総会を経て今年度から実働する様々な取り組みに期待。

[谷口円] 富士フイルムのデジカメの「フィルムシミュレーション」。フィルムらしい色で撮れる機能なんですが、使ってみたくて人に借りて撮ってみました。良い！カメラが増えてしまいそう…。

些事争論

些事でも何でも気になったらあれこれ考えてみよう。いいこと思いつくかもしれないし。気づいたら西成にたどり着いていた、或るオタクのひっそり系コラム。

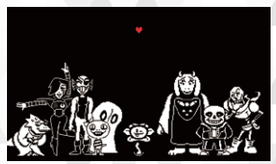
『やさしい世界』

「だれも死なないでいいやさしいRPG」ことUNDERTALEをご存じだろうか？

2015年にリリースされ、100万本以上の売上を記録したゲームである。現在のプラットフォームはPC、PS4/PS Vita、Switch、Xboxと多岐にわたり、国内外問わず様々な賞にノミネートされるなど高い評価を得ている。

ほぼ独力で製作されたこともそうだが、このゲームで驚くのは、「だれも死なないでいいやさしいRPG」というキャッチコピーどおり、遭遇する敵を一切倒すことなくゲームをクリアできてしまうことである。多くの場合、RPGは経験値を積んでキャラクターのレベルを上げ、お金を集めて装備を強化し、敵やラスボス(＝物語の核の敵)を倒すことが目的である(その上、こなさないと先に進めない任務などもあったりする)。しかし、このUNDERTALEというゲームはその定石を覆し、着の身着のままでラスボスと戦い、勝利すること(≠倒すこと)ができるのだ。

UNDERTALEは一応RPGということになっているが、様々なジャンル(RPG、FPS/TPS、シミュレーション、パズル)を遊んできた筆者は、じつはどれにも当てはまらないゲームだと考えている。



実際にプレイした友人の感想や口コミなどで「面白い」と聞いて興味はあった。それでもなかなか触るに至らなかったが、今年になってやっとプレイした。最近はRPGの単調なレベル上げや、長尺で中だるみしやすいストーリーが苦痛になっていたが、このゲームは、続きが気になって夜更かししてしまうほど面白かった。

主人公はひとりの女の子。とあることがきっかけで地下の世界に落ちてしまい、地上世界の自分の家へ戻るために旅をすることになる。地下世界で唯一の『ニンゲン』として旅する彼女だが、この世界では、理由あって人間は排除するべき存在となっており、命を狙われる場面もある。

道中で出会うキャラクターや敵のモンスターたちはみな癖が強くて個性的だ。しかし、仲良くなろうと働きかけると先入観なく受け入れてくれることもしばしば。ヘンテコだけどどこかあたたかい――そう感じる世界がそこにはある。もちろん選択によっては違った旅ができるが……。ネタバレを見ずにぜひ遊んでみてほしい。

UNDERTALEの特徴の中でもとくに、一般的なRPGとは異なる『だれも倒さなくていい』というゲームシステム、個性的なキャラクターたち、そして心に残るストーリーが、多くの人を魅了してやまないのだろう(個人的には音楽もすごく好きで、定期的に聞いたりする。コンサートも開かれていたので、きっと人気要素のひとつなのだと思う。ゲームを彩ってくれるサウンドを独学でつくっているのも驚きだ。トビーの脳内を覗いてみたいものである……)。

このゲームと、登場するキャラクターたちに倣って、柔軟で常識にとらわれない考え方を身に着けたいものである。

ハンプティ・T

[安田拓也]昨年から楽塾で舞台稽古が始まった。きっかけは現役劇団員が塾生に加わったこと。はじめは体験として１回の授業で終わるはずだった。でもプロの指導にも熱が入り、いつしか…。お楽しみに。

[福井龍磨]パトリシオ・グスマン監督の『光のノスタルジア/真珠のボタン』を観た。チリの軍事政権下で弾圧された人々や、消えゆくインディオたちの記憶と痕跡を丹念に掘り起こす。心に刻むべき物語。

葉っぱの吐見（といき）

私は草木が大好きです。とくに観葉植物には心癒されます。私と葉っぱとのお喋りを聞いてください。

「トウモロコシの葉っぱ」の巻

お腹がふくらんだ。
小粒たちがおしゃべりしてる。
お腹がかたまった。
小粒たちがけんかをしてる。
お腹がやわらいだ。
小粒たちがなかよししてる。
お腹がひきのびた。
小粒たちが完熟したあかし。
小さくなったわたしのお腹。
シワシワになったわたしの手。
大きくなった小粒たち。
ピカピカになった絹糸（※）。

赤井まゆみ

※絹糸とはトウモロコシの粒の呼び名

トウモロコシのこと
イネ科の一年生植物。日当たりのよい畑地で栽培されている。花言葉は「財宝」「豊富」

皮算用 胸算用

にしなり隣保館の館長が日々の出来事について胸のうちで皮算用していることを語っていくよ。

最近、ニュースを見ていると、「何故ロシアはウクライナに戦争を仕掛けるのか？」「イスラエルとパレスチナの問題は解決するのか？」「ＳＮＳやＡＩの技術が進む中で人間と機械との関係はどうなるのか？」と疑問がつのる。日本の「政治資金規正法」改定についてもなぜこんな結果になるのか考えさせられることが多い。はっきりしているのはすべてがその地域に暮らす人たちのためになっていないということだ。

国の指導者はＳＮＳ上やＡＩによる人権侵害を規制する法律を作らないばかりか、戦争を仕掛けている。私たちはもっと人権を大切にする政治を行うべく、この西成から発信できることを考えて行きたいと思う。このままでは、日本も戦争に巻き込まれるような気がしてならない。

（寺本良弘）

いい湯かげん

ＧＣＣ Ｋｉｄｓって知ってる？

まちづくりで生まれた隣保館「ゆ～とあい」の5年来の同居者であるインターナショナルスクール「ＧＣＣ Ｋｉｄｓ」（有吉光彦代表）。この度、教育学者の吉田武男関西外大教授がＧＣＣ Ｋｉｄｓの教育内容を評価された論文を発表されたので、これに乗じて紹介したい。

ＧＣＣ Ｋｉｄｓは、就学前児童対象の認可外インターナショナル保育園。昨秋段階で２～５歳児４クラス、日本国籍31名・外国籍７ヵ国26名の計57名が学んでいる。スタッフは常勤・非常勤合わせて約20名。占有面積も５６８・６４㎡と国が定めた基準をはるかに超えた立派な施設だ。なぜ「認可外」なのかとたずねると、「居住地に縛られず自由に特色ある幼児教育を選択してもらうため」と有吉代表はこだわりを語っている。

「ＧＣＣ」は、「豊かな地球（Global）を創るための市民権（Citizenship）を持った仲間集団（Community）」という趣旨を表している。民族や国籍を超えた「地球市民」、しかも「市民権」を持って「行動する集団」、それがアイデンティティというわけだ。

そして、探求心・共存共生の心・自然を楽しむ心という３つのグローバルマインド。子育てを始める人には刺激的だ。これを基に①健全な発育・成長のための普遍的な「保育」、②世界共通言語の「英語」教育、そして③日本文化やマナーも学ぶ「日本語」教育という「三兎」を追う。欲張りではない、それがいまの世界。

学び方もユニークである。ＥＵ統合を機に１９９０年代から始まったＣＬＩＬ（クリル＝内容言語統合型学習）という言語学習法により、「英語を学ぶ」ではなく「英語で学ぶ」。「を」を「で」に掛け直すのが肝で、英語を使っていろんなことをしながら学ぶ。なるほど、ＥＵ加盟国で母語と共通言語である英語の両方を駆使する必要に迫られて生まれた知恵である。

もうひとつが「多感覚アプローチ学習」。一つの文字に対して「見る」「聞く」「話す」「動く」「書く」「触れる」などたくさんの方法を用意し、子ども自身が得意なアプローチで修得する学習方法だ。学習障害（ＬＤ）の子どもにも有効らしい。

これら「クリル」と「多感覚アプローチ学習」と「３つのグローバルマインド」が重なって、知育偏重でもない、保育のためだけの集団活動でもない、幼児から始める地球市民権のための学習プログラムが成り立っているのだ。

有吉代表は、保育・教育方針が画餅にならぬよう体制づくりにも注力している。残業や持ち帰り業務の常態化など保育現場の逼迫する現状を訴える報道がある中で、ＧＣＣ Ｋｉｄｓでは毎日１時間の休憩はもちろん、現場を離れて個人タスクに集中できる時間（１～２時間）も設けている。また、先生全員が全クラスに関われるシフトも導入している。

「百聞は一見に如かず」。まずはナイスのＨＰを覗いて。次はゆ～とあいに見学を問い合わせてほしい。

冨田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

[若松司]飽きることなく同じことばかりグルグル考えている。他人に話してもしゃあないので、あまり披露しない。いまさらながら「物語」のこと。30年前の本に何度も膝を打っている。

[山村裕太]いつも夏を迎える前は「今年こそは夏らしいことをしよう」と意気込むが実行せず。今年はハードルを下げて「かき氷を食べよう」くらいにしておこう。

地域の縁を心でつなぐ

松向寺さんの心の時間

「何度も主人の夢を見るのですが、迷ってしまって行くべきところに行けてないのでしょうか？」との質問がありました。このご婦人は夢を外部からの「お告げ」と受け取っているようです。昔はこのような考え方が一般的で、例えば、比叡山を下りた親鸞は聖徳太子の「夢のお告げ」によって、法然を訪ねたという実話があります。

その後、1900年にフロイトは夢を分析する『夢判断』という著書で、自分の知らない自分、すなわち無意識の存在を発見し、新たな精神疾患の治療方法を編み出しました。現代でも、夢は睡眠を守り、葛藤の解消や願望の充足の為に脳内で作られるストーリーとされています。夢の中のご主人のお姿は、まだ自分が気づいていない葛藤や願望を告げられているのかもしれません。

ところで先日、私の夢の中にこの世で二度と会えない人が出てきました。ご婦人が「主人の夢を見る」のも同じように「会いたい」という願望の現われなのかもしれませんね。

松向寺　通法

写真は人生の一部が映ったもの。ここは思い出や自慢の1枚を少しご紹介するコーナーです。

ワタシの1枚

『字のかたち』

わかるかなぁ～？ わかんねぇだろうなぁ、この感じ。駅前でみつけたこのフォント。在りし日の技術や流行のデザインで作られた、何の変哲もないこのかたち。時代の空気をいまに伝えている、このかたち。あらゆるデザインが可能な現代だからこそ、異彩を放ってる。街は多彩なほうがいい。（編集スタッフ 若松司）

smile
ゆーとあい
にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ～とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび 7月号(vol.209)
発行日：2024年 7月 1日(創刊日：2007年 1月 1日)
発行：株式会社ナイス
住所：大阪市西成区長橋 3-6-33
電話：06-6563-1150
E-mail:info@nice.ne.jp
url:https://www.nice.ne.jp/

編集長：西田吉志
編集：磯拓哉、沖田一志、笹川勝正、田岡秀朋、福井龍磨、安田拓也、山村裕太、若松司（あいうえお順）
イラスト：hidarimaki、西井亜花梨
デザイン：谷口円

（株）ナイス
ホームページ